

集落対策の基本戦略(案)と施策検討 のポイント等

令和5年6月2日

■ 集落対策の基本戦略(案)と施策の柱に係る意見

第Ⅱ期中山間地域振興計画に掲げる目指すべき姿

里山・里海に象徴される人と自然が作り出す中山間地域ならではの資産が、守るべき価値あるものとして、内外の人々により引き継がれる中で、

地域への愛着と誇りの高まりが、将来への希望と安心につながり、心豊かに、笑顔で幸せな生活を営むことができる中山間地域

- ◆ 基本戦略(案) 概ね30年後の中山間地域の厳しい姿を現実として受け止め、そうした中であっても、一人一人が安心して暮らし続けるための取組を向こう10年を目途に進める。

◆ 検討の柱に係る主な意見

- 個人、集落、住民自治組織、市町ごとの複数のシナリオとクリティカルポイントの設定
- 若い世代・子育て世代にも受け入れられる生活環境の在り方

◆ その他の意見

- 中山間地域に必要な機能をつなげ、循環させる仕組みづくり
- 生成系AIの出現など外部環境の変化に伴う、今後見込まれる中山間地域の価値の高まりの活用

■ 検討の柱(①~③)と事前にいただいた意見等

① 地域間の機能分担・資源再配置



内部環境の変化

担い手の不足・小規模集落の増加・地域コミュニティの衰退
商店・ガソリンスタンドの撤退・所有者不在資産の荒廃など

デジタル技術の進展

外部環境の変化

③安心して暮らせる生活環境

②これまでの延長線上にはない地域運営

検討会議で議論いただきたい論点及び取組の方向など

① 地域間の機能分担・資源の再配置

目指すべき姿

心豊かに、笑顔で幸せな生活を営むことができる中山間地域

ア 地域間の機能分担

- 地域間での分担を検討すべき機能には何があり、分担すべき主体は誰か。

イ 資源の再配置

- 居住場所と日常生活に必要なサービスを提供する施設(商店、ガソリンスタンド、病院・診療所、金融機関等)との最適な距離感、どのように考えることが適当か。
- 民間にも新たな地域運営の主体として加わってもらうには、こういった動機付けが必要か。
- 拡散した公的インフラ管理をどう考えることが適当か。

検討会議で議論いただきたい論点及び取組の方向など(続き)

② これまでの延長線上にはない地域運営

目指すべき姿

心豊かに、笑顔で幸せな生活を営むことができる中山間地域

ウ 住民自治組織の機能の棚卸し

- 市町から住民自治組織に委ねた機能が担えなくなった場合の、市町の対応の在り方として考えられるものは何か。

エ クリティカルポイントの設定

- 住民自治組織が担う機能の棚卸しをするタイミングはいつが考えられるか。
- 住民自治組織の実情に応じた、選択肢にはどのようなものが考えられるか。
- 棚卸しや選択をサポートできる機能は、誰が、どう担うのが適当か。

検討会議で議論いただきたい論点及び取組の方向など(続き)

③ 安心して暮らせる生活環境

目指すべき姿

心豊かに、笑顔で幸せな生活を営むことができる中山間地域

オ 生活サポート機能

- 集落での暮らしにおける必要最低限担保されるべき必要な生活サポート機能は何か。例えば、移動と見守り機能とする考え方は適切か。

カ セーフティネットの構築

- 住民の自助の限界により集落の生活をあきらめざるを得なくなった場合、その後の生活を営む場所の選択肢がない個人の受け皿として考えられるものには何かがあるか。
また、それが将来に向けて十分とは言えない場合の対応をどう考えるか。

キ クリティカルポイントの設定

- 将来的に訪れる自助の限界ポイントをあらかじめ設定しておくことは適切か。また、それを見極める人的リソースはどこに求めることが適切か。
- 市町による生活環境の維持コストの在り方に踏み込んだ選択肢をどう考えるか。

検討会議で議論いただきたい論点及び取組の方向など(続き)

その他検討する上で考慮すべき事項

目指すべき姿

心豊かに、笑顔で幸せな生活を営むことができる中山間地域

ク 無住化後の資産管理

- 荒廃地の周辺域への影響を抑制するための管理手法にはどのようなものが考えられるか。
- 所有者が不在となる前に、あらかじめ管理手法を定めておく手段、また、これを促す仕組み(人的サポートなどを含む。)が考えられないか。